

# 即刻開悟の鍵 5

スプリームマスター チンハイ



目 次

スプリームマスター チンハイのプロフィール 愛の道	5
1 超世界の音	11
2 超世界の光	39
3 観音法門の修行の利益	71
4 カルマはどこから来るのか	105
5 すべての修行法門は観音法門である	135
6 智慧眼の奥義	161

	7	阿修羅の衆生	191
	8	悟りを開くとは何か	231
	9	仏陀とは何か	263
	10	三界以下の概況	297
		印心―観音法門	331
		出版物の紹介	335
		私たちへの連絡方法	339

## スプリームマスター チンハイのプロフィール 「愛の道」

スプリームマスター チンハイは、世界的に有名な靈性の指導者であり、芸術家、慈善家です。彼女の愛の心は、あらゆる文化と人種の壁を越えて、世界中の隅々まで届けられています。彼女はオウラック（ベトナム）の中部に生まれ、青年期にはヨーロッパに留学し、その地の赤字に勤務しました。すぐに彼女は世界の至る所が、苦難に満ちていることに気づきました。それゆえ彼女は苦難から救う方法を探す決意をし、このことが人生の最も重要な目標となりました。当時スプリームマスター チンハイはドイツ人の医師と結婚していて、幸福な家庭生活を送っていました。別れることは彼女らにとって極めて困難な選択でしたが、それでも夫の祝福のもと、彼女は自己の理想の実現のために旅立ちました。スプリームマスター チンハイは求道の旅を始め、靈性の開悟を追い求め、最後にヒマラヤで悟りを開いたマスターから、内面の光と音を観るメディテーション法門を伝授されました。これは後に彼女が伝授している「観音法門」です。彼女はある期間、修行に精進し、完全に悟りを開きました。

一九八〇年代に、スプリームマスター チンハイ インターナショナル アソシエーションが発足されました。マスターの教理が主旨となっています。そして人々の心からの懇願により、ス

プリームマスター チンハイは人々に「観音法門」を伝授し始め、自分の内面の偉大な本質を見つけて出すよう、励ましてきました。まもなくアメリカ、ヨーロッパ、アジア、オーストラリア、アフリカの五大州と国連の招聘に応じ、現地に赴き講演をしました。

スプリームマスター チンハイは慈悲にあふれ、貧困弱者に対して、すみずみまで行き届くよう援助しています。彼女の慈善活動は世界のあらゆる境界を越え、世界各地の貧しい人々や、苦しい状況にある老人、受刑者、心身障害者、ホームレス、アメリカの退役軍人たちにまで及んでいます。また現在、地球温暖化がさまざまな危機を引き起こしています。スプリームマスター チンハイは数百万ドルを寄贈して、人道的援助を行うと同時に、インタナショナルアシナショナル シェアリングのメンバーに世界各地に赴き、数多くの被災者を助けるよう指示してきました。その他スプリームマスター チンハイの愛は、地球上の貴重な友である動物や生態環境にまで及んでいます。慈悲深い愛に、世界の多くの人々が感動しています。彼女は人々に無私の愛の手本を示しているのです。彼女はまた、絵画、ランプのデザイン、ファッションデザイン、ジュエリーデザインなどの芸術創作活動による収益を、援助を必要とする神の子たちのために使っています。

近年、スプリームマスター チンハイは三部作を出版しました。「バード イン マイライフ」「ドッグ イン マイライフ」「気高い野生動物」です。この三部作はいずれも国際的にベストセラーとなり、さまざまな言語に翻訳されました。これらの本はマスターが霊的なコミュニケーション

シヨンと洞察力をもって、人類の友である動物たちの情感と考えを記録したもので、動物たちの高貴な精神と無私の愛を表したものです。

また道徳を広め、優秀な人たちを見習うよう、人々に励ますために、スプリームマスター・チンハイは二〇〇六年三月に「輝く世界の指導者賞」を設け、後にまた、「輝く世界の英雄賞」「輝く世界の愛情賞」「輝く世界の誠実賞」「輝く世界の発明家賞」などを設けました。これらの榮譽ある受賞者は、個人のほかに国家や団体も含まれています。彼らは世界に手本を示し、平和と美しい地球の持続的発展のために大きな貢献をしました。たとえば、スロバニア共和国の第二代大統領ヤネス・ドルノウシエク博士、アメリカの第四五代副大統領アル・ゴア氏（国連気候変動に関する政府間パネルと共同で二〇〇七年ノーベル平和賞を受賞）、国連気候変動に関する政府間パネル議長、インドのエネルギー研究所の所長のラージェンドラ・パチャウリー博士（二〇一〇年にUN-HABITAT 都市スπίーチ賞を受賞）、NASAゴダード宇宙科学研究所主任研究員ジェームス・ハンセン博士（二〇〇九年にロスビー研究賞を受賞）、イギリスの有名な霊長類学者ジェーン・グドール博士です。

スプリームマスター・チンハイも「輝く世界の英雄賞」「輝く世界の知性賞」を人類のよき友である動物たちにも授与しました。動物たちが危険を顧みず他の命を助け出した、無私の健全な行動を称え、動物たちの愛に満ちた勇氣と聡明さと思いやりの精神を称えました。

スプリームマスター・チンハイは霊的な面だけでなく、物質面でも世界に多大な貢献をしてい

ます。彼女自身はいかなる承認も求めていませんが、世界各国の政府や非営利団体は彼女の献身的な奉仕を称えて多くの賞を授与しました。たとえば、二〇〇六年グシ平和賞、二〇〇六年第二七回テリー賞銀賞、二〇〇二年ロサンゼルス・ミュージック・ウィーク表彰、一九九四年世界精神指導者賞、一九九四年世界市民人道主義者賞などです。この他にアメリカ政府の官僚により、二月二二日と一〇月二五日をチンハイデーと定められました。今でも彼女はこの世界を助けるために全力を尽くしています。数多くの世界のリーダーと民衆は、彼女に対し感謝しています。

スプリームマスター チンハイは環境保全の先駆者としても有名です。彼女は智慧と勇氣をもって、気候温暖化問題に対し、警告を發しました。実際、彼女は二十数年前から、すでに環境保全を呼びかけています。彼女が「もう一つの生き方」、「SOS地球温暖化を阻止しよう」という活動を地球規模で展開し、地球温暖化阻止国際会議にも出席し、ゲストとして基調報告を行い、人々に現在世界的に頻繁に起きている、災害の根本的な原因と解決の道を示しました。それはつまり、慈悲にあふれるビーガンライフスタイルです。現在、人々によく知られているスローガン、「ビーガンになって、平和な世界を創る」は、スプリームマスター チンハイが發案したものです。

食生活が気候に大きな影響をもたらしていることから、人々に慈悲に満ちた持続可能なライフスタイルを提供するため、ビーガンレストラン「Loving Hut (ラブングハット)」はスプリ

ームマスター チンハイの呼びかけに応じて大きく発展しています。これらのレストランは人気になり、世界各地にチェーン店があり、安くて美味しく、しかも栄養バランスのとれた、さまざまなビーガン料理を提供しています。人々に健康的な食生活を勧め、最も有効な温暖化阻止の道を示しているのです。それにより、この地球と住んでいる人々、そして生きとし生けるもの、私たちの子孫を保護し、地球温暖化によってもたらされる、絶滅的な影響を免れるのです。

この時代において、スプリームマスター チンハイは無私の奉獻をし、苦勞をいとわず、世界の人々を助け、貴重な地球のために、光り輝く未来を切り開いています。

## メッセージ

霊性の師であり、芸術作家でもあるスプリームマスター チンハイは、内面の美を表現することをこよなく愛しています。そのようなわけで、彼女はベトナムを「オウラック」、台湾を「フォルモサ」と呼んでいるのです。オウラックはベトナムの古称で「幸福」を意味し、また、フォルモサの名はその島と人々の美をより完全に表しています。マスターはこれらの名称を使うことで、その土地と住人の霊性を上昇させ、福報をもたらすと感じているのです。

## ビーガンのライフスタイル

スプリームマスター チンハイは講義の中で菜食について言及しています。二〇一〇年からは「ビーガン食生活」を人類の理想的なライフスタイルとして力強く、熱心に、強く推進しています。これも博愛の精神によるもので、ビーガン生活は動物たちが受けている大きな苦しみをなくし、人々が病気による苦しみから免れるためでもあります。また二〇一〇年四月十四日からビーガン食生活を印心の条件の一つに定めています。（ビーガンとはまったく動物性成分を含んでいない食べ物のことを指します。つまり乳製品、魚、肉類と卵（受精卵、未受精卵）なども含まない食べ物です）



## 超世界の音

スプリームマスター チンハイ フォルモサ・澎湖

一九八七年四月二十四日

徳の高いみなさん、良き友のみなさん、私たちは初めてお会いしますが、仏教の因果から言  
うと、私たちは良き友です。前世ですでに良き友だったので、それで今、みなさんに再びお会  
いできて、私はとてもうれしいのです。みなさんはうれしかどうかわかりませんが。(聴衆「う  
れしいです」と答える) 「甘夏(ガムシヤ。マスターは台湾語で感謝と答える)」(笑い)

仏教の言い方によれば、私たちはどうやらとても縁があるようです。縁とは何でしょう。そ  
れは前世において一緒にいて、互いに何か関係があったのです。私たちが人間として生まれて  
来たのは一回だけではありません。行ったり来たり何回も輪廻を繰り返して来ました。その間、  
私たちには多くの友人、親類、夫、妻などがいました。それで今、みなさんがここに集まって  
いるのです。私たちは決して見知らぬ人ではなく、ただ衣服を取り替えただけです。これ(マ  
スターは体を指して)は衣服です。私たちの内在の本当の主人はこの肉体ではありません。毎  
回生まれて来るたびに違う衣服を着ているので、互いにわからなくなっただけです。でも、私た

ちがたくさん修行をすると、過去、現在、未来のことは見ることができ、すると私たちは互いに関係があることがわかります。今一緒にいるということはまさに関係があるからです。

ここに講義を聞きに来ている人の中には、さまざまな宗教の代表者や信者がいるかもしれませんが、実はイエス・キリストも「因果」について述べています。聖書で「私は古代のある大師の化身、あるいは生まれ変わりで」と言っています。また「大師たちは常に化身してこの世に来て、私たちと一緒に暮らします。でもみなさんは大師たちを知らないのです」と言っています。キリストの言っている意味は明らかに因果、輪廻を指しています。また“*As you sow, so shall you reap.*”と言っています。この意味は「汝がまいた種は自ら刈り取らなければならない」です。これが因果でなくて何でしょう。仏教の言い方と違いはありません。

道徳経(どうとくきょう)の中でも因果について述べていますが、古文はわかりにくいので、みなさんはわからないかもしれません、詳しく読めばわかると思います。例えば老子は「這個道本来很中立的,但是祂會傾向善良的人」(道徳経第七十九章 天道無親,常與善人。)(この道は本来とても中立であるが、しかし、善良な人に傾いている)と言っています。この意味は因果を指していて、この「道(タオ)」は良い人にだけ援助し、福をもたらす、ということですから、私たちがよく考えればわかります。どんな宗教もみんな同じことを言っています。

私の言った道理と違うところはあります。イスラム教も同じことを言っていますが、今日私たちの目的は宗教の討論会を行うことではないので、ここまでにしめしめよう。

なぜ、私は多くの宗教はすべて同じであることを最初に話したのでしよう。この重要な点を説明しないと、今日ここにいらした何人かの聴衆は、私がここでみなさんを改宗させて、仏教徒になるようにと勧めているのではないかと思うからです。違います。私はそんなことは望んでいません。私から見た場合、どんな人もすべて仏教徒ですが、ただ名称が違うだけである、というものです。私は仏教、キリスト教、道教、イスラム教はすべて良い宗教だと思っていますが、ただし、私が思うに、今日の仏教徒、キリスト教徒、道教徒、イスラム教徒などのほとんどの方が、教主の教理を誤解しているということです。それで多くの宗派に分かれ、論争が絶えないのです。自分の宗教の中でさえ、見解が異なり、論争が絶えないのに、他の宗教間での衝突はもっと激しいことは言うまでもありません。これはとても残念なことだと、私は遺憾に思います。

教主がこの世界を離れたあと、真理を伝える高僧がいなくなり、それでだんだん変質して、現在に至り変わってしまいました。私たちはあらゆる宗教はすべて同じではないと思っていますが、実際、本来は同じだったのです。私たちが本当にこの教主たちの教理を理解できたら、真理はすべて同じであることがわかります。宗教は異なっているかもしれませんが、修行の法門はすべて同じです。

私の言っている意味は、どんな宗教を信じるにせよ、すべて観音法門を修行できる、ということ。どうして観音法門を修行しなくてはならないのでしょうか。修行しなくてもいいのではないですか。当然いいですとも。宗教信仰はなくてもいいですが、修行はしなくてはなりません。けれども、もし私たちに問題意識があるなら、「私はどこから来たのか。死んだらどこへ行くのか。どうしてこの世界に来て人間になったのか。人間になるとこんなに苦しいのか。人間になりたくないが、それは可能だろうか。この世界以外に他にもっと良い所はないだろうか。私には自由に選択できるだろうか。この世を離れようとすれば、自由自在に離れ、他の境界（きょうがい）（きょうがい）に住みたければ、いつでもそこへ行ける、そんな自由自在のレベルになり、生と死に苦しみが無いレベルになれるのだろうか」などと、いつも自問するでしょう。

もし、私たちにこんな問題があれば、当然この問題に答えられる人を探します。それでほとんどの人が宗教の指導者を探します。例えば、キリスト教の信者であれば、神父かシスターの所へ行き、仏教徒であれば、僧か尼僧、在家菩薩を訪ねて、彼らに教えを請いたり、勉強したりします。けれども、たとえ私たちがそのような宗教の所を訪れても、ほとんどの人は満足できる答えは得られません。それで答えを求めてまた他の所へ行くのです。そこで、私たちは智慧のある人、悟りを開いた師と呼ばれる人に出会って、その人について勉強しようとしています。そういう先生は、はっきりと答えを教えてください、私たちの問題を解決してくれるからです。

もし、あなたに生死の問題があつて、答えてくれる人を渴望しているなら、観音法門を修行

すべきです。一人の智慧のある人を探し出し、「観音法門」を伝授してもらうことです。観音法門は唯一無二のカギで、あらゆる宇宙と生死の問題を解明できて、私たちが自分で答えを見つけることができるようにしてくれます。答えは必ず自分で悟らなければならず、他人の言うことを聞くだけはいけません。また、私たちがこの世を離れたくても、自由に離れられるものでなく、他の境界（きょうがい）に遊びに行こうと思っても、いつでも行けるものでもないのです。

必ず先に最高の法門を探し出し、毎日修行をしなければなりません。私たちはそれから自在になり、解脱して行きたい所へ行けるのです。これは私たちが自由にあらゆる国に行ける、ビザのようなものです。必ずしも永遠にフォルモサ（台湾）に住まなくてはならないのではなく、ありません。観音法門を修行すると、私たちは自分がどこから来て、この世を離れてからどこへ行かを知ることができます。

普段、逆境に出会わないときは、何の問題もないかもしれませんが、病気のとときや家族が往生したときは、私たちはとても弱く、とても無力で、その人を助けるわずかな力もなく、この世に引き止めようとしてもできません。私たちの両親もいつ往生するかわかりません。誰もそれを引き止めることはできず、彼自身が死にたくなくても止められませんが、時が来たら、あらゆる人が、貧富、貴賤を問わず、みなこの世を去らなければなりません。その時は選択の余地がないのです。ですから、とても苦しいのです。心の中でこの家族に未練があっても、留まる

ことはできません。

あなたが在世のマスターについて観音法門を修行してこそ、たとえ修行したばかりで、まだパワーが足りなくても、往生のときに自在にこの世を去ることができなくても、マスターは永遠に自在な所へ連れて行ってくれます。観音法門の修行が成就したあとは、人を救おうと思えば救えます。この世を去ってから、この世に再び戻って来て、困っている衆生を救うこともできます。その時あなたは自在な人になっていて、完全に自由自在な身で、来たければ来られるし、行きたければ行けます。ですから、観音法門はとも不可思議で、唯一無二の法門です。これは創造主のパワーで、永遠に存在し、最高で最も根源のパワーです。

普段、修行をしていないと、私たちの家族がこの世を去るとき、私たちは「どうして行かなければならないのか。どうして他の人ではなく彼なのか」と自問するでしょう。そして、私たちはこの答えを探し出そうとします。というのは、人間になるのは楽しくないことで、特にすることもなく、毎日ご飯を食べ、仕事をして、寝て、五、六十年、長くて百年経つとこの世を離れてしまうのです。どうしてこうなのかもわかりません。ですから、私たちは解脱して悟りを開かなければならないのです。

悟りを開くとは何でしょう。悟るとはわかるということですが。どうして人間にならなければいけないのか、どうして世界はこんなに苦しいのか、どうして戦争があるのか、どうしてこうなのか、どうしてああなのか、ということを知らなければなりません。大部分のキリスト教の

信者は、このような問題があるときは教会へ行つて、神父やシスターと一緒に歌を歌い、神の助けを求めたり聖書を読んだりします。こうするしかありません。他に方法はありません。当然、これは私たちの心にとつて助けになり、私たちの苦しい渴望の心を慰めてくれます。時には感応が少しあります。私たちが病氣や苦しいときには、より真心を込めて祈るので、状況は少し改善して、少し楽になります。

仏教徒であれば寺院に行つて礼拝します。すると寺院では、朝晩のお勤めをさせたり、呪文を唱えさせたり、阿弥陀仏や観音菩薩を唱えさせたりします。大体こんなものです。少し高いレベルの僧侶は、私たちに座禅や禅問答を教えてくれます。例えば「私は誰か」という禅問答を出しては、それをあなたが自分に問いかけるようにします。これがいわゆる禅問答です。私が「私は誰か」がわかったら、師を探して尋ねる必要がありますか。そうでしょう。禅問答をして、ほとんどの人は何の結果も得られません。相変わらず自分は誰かがわからないのです。例えば、今のが渴いて死になつていている人がいたとして、水を飲ませてくださいと頼んでいるときに、あなたは水をあげないばかりか、「水とは何か」「水はどこにあるのか」「もうどうでもいい、ほつときなさい、水を考えるな」と言つたら、のがが渴いて死にそうな人に対して、とても残酷ではありませんか。けれども、観音法門のマスターならすぐ水を飲ませます。しかもどこに水を探しに行つたらいいかも教えてくれます。毎日マスターに頼つて水を飲ませてもらわなくても、自分で水を探せます。この水のがが渴いた人を救うこともできます。こ

れが観音法門を修行して直ちに得られる、うれしい結果なのです。

たとえ努力して禅問答をしても、答えのある体験が得られるとは限りません。他の方法で修行しているいろいろな体験があっても、これらの体験はまだ究極ではありません。例えば、見えたのはすべて第二流の光で、見えた境界（きょうがい）はすべて低いレベルに属しています。これは低いレベルです。これは他の宗教の経典を参考にしてみると、すぐわかります。

そして、誰でも禅問答ができるわけではありません。ごくわずかな人しか修行できません。禅問答を修行したければ、まず先に多くの知識をもっていなければなりません。知識があまりない人は修行できません。今の禅は以前と同じではありません。もし、禅問答をする人について修行するならば、体が健康でなければならず、病気の人は修行できません。あぐらをかくことができないと禅師は受け入れてくれないからです。

私はアメリカでこのようにいわゆる「禅師」に会いました。ある人が「禅師」に「私はあぐらをかくことができなくて、金剛座に座ることができないが、あなたについて勉強できますか」と聞きました。禅師は「できません」と答えました。その人はまた「椅子に座って修行できますか」と聞きました。禅師は「できません」と答えました。ですから、私たちが見たところでは、今日のいわゆる禅の系統では、今の時代において、修行を渴望している多くの人たちには適合してはいないと思います。あぐらをかくことができない人がいるからです。誰でも生まれつきあぐらをかけるとは限りません。あぐらは長い間訓練してやっとできるのです。年を取り、

中年になって、今までにあぐらをかいたことがなければ、今すぐにあぐらをかけといっても、どうやってできるのでしょうか。修行は体だけを使うのでなく、「心」で修行するのが最も重要なのです。

このように体が原因で修行できないのは、実に理にかなっていません。本当に良い法門であれば、あらゆる人すべてが修行できるものでなければいけません。子どもも修行できます。私の弟子の中には六歳の子どももいます。子どもたちはよく修行していて、境界（きょうがい）も高いです。年を取った人も修行できます。私の弟子の中で、最高齢者は八十歳を超えています。修行も良く体験もあります。病気であぐらをかくことができない人でも、同じように修行ができます。ある老人が私に「あぐらがかけないのですが、修行することができませんか」と聞きました。私は「できますよ」と答えました。そしてその人は体験があり、智慧を開くことができました。修行できない人などいません。

ですから、どこでも良い師に巡り会えなければ、必ず問題が生じます。年をとった人を受け入れない禅師がいます。私がアメリカで会った禅師もお年寄りを受け入れませんでした。六十数歳になれば大体受け入れません。その禅師と一緒に七日間座禅に参加することもできないし、その禅師と一緒に座禅することも許されませんが、そういう年を取った人たちには阿弥陀仏を唱えることを教えるのです。本当はお年寄りでも修行することができません。お年寄りだから阿弥陀仏しか唱えることができないというわけではありません。

お経や仏陀の名を唱えることはそれなりに効果があります。聖歌を歌ったり、イエス・キリストや聖母マリアに祈ったりしても効果はあります。しかし永遠に解脱したいなら、最高の境界（きょうがい）に達することです。永遠にもう戻って来たくないなら、さっきのようなやり方では足りません。それには観音法門を修行しなければなりません。そうでなければ、釈迦牟尼仏の時代、インドには多くの経典があつたのに、なぜ釈迦牟尼仏はお経や仏陀の名を唱えることだけに頼らなかつたのでしょうか。あんなに努力して座禅し、六年も苦行をする必要はなかつたはずですよ。その後、釈迦牟尼仏は大弟子や衆生に観音法門を修行することを強調しました。

イエス・キリストも同じです。キリストは宗教的な家庭に生まれました。幼い頃からすでに菜食でした。イエス・キリストの生涯を研究すればわかりますが、キリストは Essene (エッセネ派) の家庭に生まれました。その宗派は何千年もずっと菜食です。インドのバラモンの家庭と同じで、バラモンの家庭では小さいときから菜食です。イエス・キリストがエッセネ派の家庭に生まれ、菜食なのに、どうしてまたインドへ行つて苦行をする必要があつたのでしょうか。彼はヒマラヤで十数年修行したあと、道（タオ）を得たのです。

ということ、経を唱える、念仏する、祈る、歌を歌う、聖書を読むということだけでは足りないのです。これらは粗いカルマを少し消去することができますが、とても細かな、とても微細な、自分でさえ感じることのできないカルマは消去できません。観音法門を修行しない限り、この永遠に存在する「音流」できれいに洗わない限り、私たちはこの生死輪廻から離れる

ことができませぬ。ですから私が再度にわたって、観音法門を修行すべきだと、強調しているのです。

私たちがどんな名を唱えても、どんな経を唱えても、すべてこの世界の言語に属し、この世界のものに属しています。この世界の道具を使つて、どうやって超世界に達することができるのでしょうか。私の言っている意味がわかりますか。例えば、澎湖（ほうこ：台湾の地名。多数の島からなる諸島）の陸地にいるなら、私たちはオートバイや、自転車や、車を使うべきです。しかも歩くこともできます。けれどもフォルモサ（台湾）に行くのなら、必ず海峡を越えなければいけません。その時私たちは陸地で使う乗り物が使えますか。当然使えませぬ。ですからフォルモサへ行くのなら、飛行機に乗りかえるか、または船に乗ります。そういったものは空間を越えられる乗り物だからです。船に乗れば海を越えることができるし、飛行機に乗れば大空を越えることができます。

同様に私たちがこの世界を超越しようとするなら、この世界の道具や、この世界の言語を使つてはいけません。身、口、意（体、言葉、考え）に属するものは、みなこの世界の道具で、凡人の道具です。南無阿弥陀仏を唱えることや、キリストを唱えることなどは、みなこの世界の言語を使っています。經典もこの世界の言語で書かれていて、これらはすべて無常のものです。無常の法門を使えば、当然、無常になってしまいます。

どうして音はそんなに重要なのでしょうか。今、私はまず凡人世界が私たちにどんな影響を与

えるかを説明して、その後また超世界の不思議な影響と比較してみましよう。

みなさんはご存じのように、子どもは生まれたときから、とても音が好きです。子どもが泣くと、母親はゆりかごを揺らして、歌を歌えばすぐ泣きやみます。また泣いたら、母親は小さい鈴を振るか、音の出るものを子どもにあげればすぐに泣きやみます。

どうして子どもはこんなに音が好きなのでしょう。母親のお腹の中で、この超世界の無形の音と通じ合っていたからです。「神」「道（タオ）」「根源の大きなパワー」あるいは「仏陀のパワー」と通じ合っていたからです。この音は仏陀のパワー、つまり「創造主」のパワーなのです。胎児はお腹の中で何も食べていません。中には空気もないし、太陽もありません。しかも体が逆さまになっても死ぬことはありません。胎児は魚ではありませんが、母親の体内の水の中で泳ぐことができ、溺れることはありません。何も食べませんが、この期間の成長は一番速いのです。生まれた後もお腹の中の成長速度と同じなら、すぐに天まで届くほど成長するでしょう。（笑い）意味がわかりますか。

それはお腹の中にいるときはこの超世界の音と一緒にいて、この音は胎児を養い保護していました。この世界に生まれて来るとこの音と遮断されるので、それで赤ちゃんはとても苦しく、楽しくなく、すぐさま孤独と、恐怖と、苦痛を感じるので、それで生まれるとすぐ泣き出します。生まれて来るときに笑顔で出て来る子どもはいません。みなさんが生まれてきたとき泣いていましたか。笑っていましたか。（ある人が「もちろん泣いていました」と答える）そうで

す。ほとんど泣いています。それはこの胎児を養うパワーとの繋がりを失ったため、赤ちゃんにとつての最大の慰めと支えを失ったので非常に寂しく、苦しく感じるので。とても敏感な体がこの世界の空気と接触すると痛みを感じるので、生まれるとすぐ泣くのです。けれども、赤ちゃんは何も話せないのです、私たちにはわからないのです。

生まれたばかりの赤ちゃんは、何かの音を聞くとあの内在の音だと思い、しばらくは慰められ泣きやむのです。精神的に脆弱な人が病院に行くと、医者は精神が安定するように比較的柔らかない音楽を聞かせます。私たちは毎日の仕事でとても疲れています。家に帰って少し休憩し、音楽を聞くとリラククスできるでしょう。ですから、音楽は私たちの世界ではとても重要なのです。昔から今日まで、音楽は人類にとつて必要なものです。こんな凡人の声でさえ、私たちにとつて重要なのですから、超世界の音は私たちにとつてもっと重要で、もっと必要なのです。

週末、家でテレビや、ラジオや、たくさんビデオテープや、または流行歌を聞けますが、私たちはやはり郊外に行き、大自然の中で、小鳥の鳴く声、水の流れる音、海潮音、風が梢をゆさぶる音、雨が葉をたたく音、カエルやセミの鳴き声などを聞くと、とても気持ち良くなり、音楽を聞くより気持ち良くなるのです。

ある人たちは都会の味気ない雰囲気能耐えられないので、家で小鳥、子猫、子犬を飼ったり、野菜を栽培したり、盆栽を植えたりします。自然の雰囲気や、自然の音がとても好きだからです。けれども、私たちはいつも森の中へ行って小鳥の鳴き声を聞くわけにはいかないし、風が

吹いている小川のせせらぎを聞くわけにもいきません。ですから、そういったものを栽培するのは。少なくとも、そういったものは自然の雰囲気を少し表しているからです。私たちの内在の本性に適していて、私たちの心を慰めてくれるからです。そうでないと私たちは耐えられないかもしれません。ですから、今、どの国でも自然生態の保護を提唱し、自然の景観を守り、多くの国は木の伐採や野生動物の狩猟を禁止しています。これはすべて自然生態のバランスを保護するためです。

たとえこんな凡人世界の音でさえ、私たちにとって、こんなに魅力があるのです。けれども、私たちには他に不思議な超世界の音があり、それは「万能」で、しかも私たちのあらゆる渴望を満足させ、あらゆる問題を解決してくれます。どうしてでしょう。私たちと万物すべてが、この音から創造されたものだからです。聖書にはこう書いてあります。「初めに言(ことば)があった。言(ことば)は神と共にあった。言(ことば)は神であった。すべてのものはこれによつてできた。できたものうち、一つとしてこれによらないものはなかった」*In the beginning was the "Word"(Sound), and the Word was with God, and the Word was God, everything was Made by this, and nothing was not made by this.*

みなさんは帰って聖書を読めばわかります。この意味は、宇宙が始まったときからこの音があり、「言(ことば)」は音を指していて、この音は神と共にあり、この「音」は「神」であり、宇宙の万物はすべてこの音から創造され、この音から生まれないものはない、ということなのです。

仏教でもこの音について語っていて、楞嚴經（りよごんきょう）ではこう述べています。「すべての仏陀はこの『音流』に沿って降りて来て衆生を救い、菩薩と衆生はこの『音』を頼りに源に帰る」（八巻：如來逆流，如是菩薩順行而至，實際入交名為等覺） 普門品（ふもんぼん：觀音經のこと）では「梵音海潮音、勝彼世間音（梵音海潮音はこの世の音に勝る音である）」と言っています。法華經の法師功德品（ほっしきどくほん）の中でもその内在の音について語られています。例えば、鐘の音、鼓の音、シンバルの音などはすべて内在の音ですが、それらはまだ高いレベルの音ではありません。それは初級レベルの境界（きょうがい）の音にすぎません。高いレベルの音については、私はここで話すことはできません。

高いレベルの音は高いレベルの世界を表しています。私たちはその音を聞くと体全体が変化します。この音は私たちの生命全体に影響を与え、私たちの生活様式を変えます。私たちのカルマの鎖を解き放つてくれます。私たちが自在に幸せにして解脱させます。こういった影響はごく短い時間内に体験でき、何年も待たなければならぬものではありません。私たちは耳でこういった音を聞いているだけではありません。潜在意識までもこの音によってきれいに洗われ、過去世のカルマや良くない記憶もすべてきれいに洗われます。水流が衣服の汚れを洗い落とすのと同じで、内在の「音流」も私たち自身のカルマを洗い落としてくれます。

カルマとは何でしょう。それは良くない事柄を指しています。私たちの過去世において行っていたいろいろな良くないこと、または世々代々、取り巻く環境から影響を受けた、悪い記憶のこ

とです。現在、そのことを知っている人は誰もいませんが、私たちの頭脳はそれを全部記録しています。それを仏教では「カルマ」と言い、キリスト教では「原罪」と言います。私たちは生まれたときからすでに原罪、または過去世のカルマを持っています。あとでみなさんに講義録を配りましょう。参考にしてください。私は他の所であらゆる宗教はすべて観音法門であることについて述べました。ただ彼らが使っている名称が違うだけで、実際すべてはこの内在の音を指しています。あとでみなさんは持ち帰って参考にしてください。今はもう話しません。ただこの音の効用について話しましょう。

どうしてこの音がそんなにたくさんのカルマを洗い落とすことができるのでしょうか。それはあらゆるものはすべて、この音から創造されたものだからです。この音は振動力であり、大きなパワーですが、振動力が粗いときは音に変わります。高いレベルの音は「内在の智慧」でしか聞けません。比較的低いレベルでは、小鳥の声、水流の音、または風の音、雷の音などが聞こえます。これは私たちのこの世界の音と同じです。もう少し高い世界にはより高い音があります。けれども、私たち凡人はこの世界の住民なので、そのような高いレベルの音は聞けません。聞きたければ、必ず私たちのレベルを上昇させなければなりません。高いレベルの世界の住民と同じになれば聞こえます。

今、私たちはこの部屋にいます。みなさんは私の声しか聞こえません。もし海潮音を聞きたければどうすればいいのでしょうか。海辺へ行かないと聞こえないですね。同様に、私たちが高

いレベルの音を聞いて、高いレベルの境界（きょうがい）を見たければ、そこへ行かなければなりません。そこへ行くにはどんな方法を使いますか。この「音流」に頼ってこそ聞こえるのです。すべての世界はこの音で繋がっているのです。みなこの音流から生まれて来たからです。カルマもこの音流から来たのです。ですから、元々なかったカルマを、私たちは「音」で洗い落とせるのです。

例えば、私たちは何回も生死輪廻を繰り返しました。ですから、多くのカルマがあります。けれども、その最初はカルマなどあるわけではありません。ですから、カルマは元々ないので。すべてのものはこの音から作られたので、私たちが罪を犯したとしても、それは多くの悪いことに影響されたからです。すべてのものがこの音から作られたとしたら、「罪」も例外ではありません。ですから、その罪も私たちの過ちではないのです。私の言っている意味がわかりますか。

みなさんは今、私のこんな話を聞いていますが、しかし、みなさんのカルマはそんなに早くは消されるものではありません。みなさんは頭でわかっているだけです。カルマを消すには、やはりこの音で洗い落とさなければなりません。もちろん、私の講義を聞いてもみなさんの粗いカルマを少し除去できません。それはみなさんの目には見えませんが、みなさんが私を信じてくれることを期待していません。でも、みなさんに理解してもらうために少し話すだけです。どうぞ参考にしてください。

私に会ったときや私と一緒にいるときは、当然、粗いカルマは洗い落とすことができます。でも微細なカルマは見えないし、触ることも感じ取ることもできません。そのような微細で、根深く悪い記憶は、必ず目にも見えない、また触ることもできない微細な音流を使わなければきれいに洗えません。それはこの音流には不可思議なパワーがあるからです。もしそれと繋がれば、どんな汚れたところも、ことごとく浄化されます。

いわゆる見えないパワーとはこの音を指しています。普通の目では見えません。普通の耳では聞けません。必ず私たち自身が少し高いレベルに上昇して初めて、あの高いレベルの音が捕えられるのです。この世界では、私たちには普通の音しか聞こえません。例えば、鳥や、虫の鳴き声や、海潮音、または私たちの世界の音楽などです。

高いレベルの音楽が聞きたければ、レベルが高くならなければなりません。レベルが高くなりたければ、必ず、すでにレベルが高くなった人を探して、指導してもらわなければなりません。その人は私たちのために、ドアを開けてくれて中に入れてくれます。まるで環境をよく知っているガイドのように、部屋がそこにあることを知っていて、しかもカギを持っているので、私たちが入りたいと望めばドアを開けてくれるのです。意味がわかりますか。

ですから、私たちはマスターを探さなければなりません。高いレベルに行きたければ、経を読むだけではあまり役に立ちません。ただある低いレベルにしか達することができず、そこに留まるだけです。経を読む利益は、私たちの気持ちを少し楽にしてくれるだけです。けれども

超世界へ行きなければ、必ずマスター、すなわちそのカギを持っている人を探し出さなければなりません。高いレベルのドアを開けてくれて、私たちを入れてくれます。ドアがどこにあるかを知っているのです、その人が開けると、私たちは高いレベルの音とその境界を体験することができます。

どうして「カルマ」は私たちの過ちではないと言うのでしょうか。どうしてカルマは元々なかったと言うのでしょうか。先ほど話したように、あらゆるものはすべて、この音から出てきたので、カルマもそれ自体が作り出したのです。(マスター笑う) ですから、それ自体に自分の過ちを改めさせなければなりません。これでみなさんは理解できましたか。私たちには元々カルマはなかったのです。罪もなかったのです。

例えば二日前のことです。私たちの修行仲間の医者は私のことが好きで、私が小さいときサボテンを食べた話を聞き、サボテンが大好きだと知って、すぐサボテンを採って来て食べさせてくれました。みなさんもご存じのようにサボテンにはたくさんのトゲがあります。医者にはサボテンを採って皮をむき、私に持って来てくれました。心を込めて持って来てくれたので食べました。するととても細かい見えないトゲが刺さりました。舌に刺さったのです。その時すぐに痛みを感じました。この痛みはどこから来たのでしょうか。もともと痛かったのですか。違います。そのトゲが舌に刺さっているから痛いのです。今どうやってこの痛みを取ればいいのか。違います。アスピリンを買ってくると良くなりますか。頭痛なら効き目がありますが、これは内側

が痛いのではなく外側の痛みです。それではどうしましょう。トゲを抜き取れば良くなります。

私たちはよく自分にカルマがあると云います。どうしてわかるのでしょうか。それは生活がとても苦しいからです。ある時、何の理由もなく苦しみます。生活は順調でお金もあり、夫もいて、奥さんもいて息子もいて、見た目ではとても順調ですが、やはり苦しいのです。それは私たちが過去のカルマの影響を受けているからです。その上、私たちはこの源の大きいパワーと繋がり絶たれ、孤独に感じ、不満足で、この世界の何かをもらっても満足できません。たとえ国王になっても満足しません。みなさんは国王が幸せなのを見たことがありますか。とても少ないです。高い地位にいるほど責任も重いので、私たちから見て、世界の地位が高い人はそんなに幸せではありません。

それはこの世界の地位は究極のものではなく、私たちが探そうとしているものではないからです。たとえ一国の元首になったとしても、その地位に五十年いるだけです。私たちは百歳まで生きられればもう最高です。ですから、世俗のものは何一つとして永遠ではなく、永久ではないのです。ですから、私たちの心は相変わらず不安で、毎日もんもんとして楽しくないので。ただその根源の音と一緒にいるときだけが幸せなのです。

例えば、私たちは本来完全な人間です。もし誰かが私たちの腕を切り落としました。腕はうれいでしょうか。その腕は私たちの腕に間違いなく、腕としては何も変わりはありませんが、私たちの体から切り離されて、もう活力がなくなり、とても孤独で、少しも元気がなく、

時間が経つと壊死して使えなくなります。腕の活力を回復するには、再び接合しなければなりません。

ドイツでは医者には切り落とされた腕を接合することができます。これはとても難しい細かい外科手術です。一本一本の血管と神経を縫い合わせます。少し時間が経つと、この腕は前と同じように自由に動かせて、何の違いもないようになります。その時、私たちの腕はうれしくなります。活力があつて体のその他の部分も生氣を得てはつらつとします。

私たちの霊体も同じです。もし宇宙の万物の大きなパワーとの繋がりを断たれたら、私たちは苦痛を感じます。もしそれが再び繋がったら、うれしくなるのです。私たちがこの大きなパワーとの繋がりを断たれると、多くの問題が起きます。例えば、交通事故で腕が切断されたとします。事故の現場にはほこりや、石ころや、その他の汚物があり、腕は変形して醜くなります。これは決して腕の過ちではありません。その災難でこんなになつたのです。そうでしょう。

私たち人間も同じです。私たちは生まれて、その大きなパワーとの繋がりを断たれてしまいました。それで、私たちには多くの問題が起きます。たとえ嫌でも起きます。問題は自ら私たちの所へやつて来るのです。例えば、ある人がいたとします。盗人ではありません。けれども、家が地震か台風で壊れ、仕事もなく、財産も全部使つてしまいました。こんな時どうしたらいいのでしょうか。托鉢にも行きません。ある日とてもおながが減り、息子か奥さんが病気で苦しんだり、おなかをすかしたりして、やむを得ず、食べ物を盗んで家族に食べさせ

ました。これはこの時の状況に迫られたのであり、不本意でやったのです。本来そうしようと思つたではありません。

同じ意味で、私たちには元々カルマはなかったのです。根源のパワーと繋がるとカルマはなくなりません。ですから私は、カルマは洗い落とすことができると言っているのです。まだこの「パワー」(音流)と繋がる前に、私たちがすでにこの大きなパワーと繋がった人に出会えば、私たちも自然に加護のパワーの影響を受けます。ですから、先ほど私が言ったように、私の講演を聞いても粗いカルマは消されませんが、最も良い方法は、自分で川の中へ入って洗った方がもっときれいになります。私は川の流れと繋がっていて、たくさんの水をみなさんあげることでできます。しかし、みなさんには水が少ししかないのです、もし私があれば、なくなつてしまいます。そうでしょう。もし、みなさんが自分でこの水流と繋がりを、水源がわかれば、自分で欲しいだけ持つて帰ることができます。自分が使えるばかりでなく、他の人に分けることもできます。永遠に使い果たすことはありません。

先ほど話をした切断された腕についてですが、もし体と繋ぎ合わせなければ、だんだん醜くなり、色はだんだん黒くなり細胞は徐々に死んでいきます。時間が経つと繋ぐことができなくなり、もう使えなくなります。他の国でこんな精密な手術ができるかどうか知りませんが、ドイツではこうやります。車の事故や災害で腕が切り落とされた人がいると、直ちにそれを氷と一緒にビニール袋に包んで、その人と一緒に切り落とされた腕を持って特別な病院に行きます。

ドイツでもこのような病院はあまり多くありません。そしてこういった手術ができる医者もそんなに多くはいません。縫合手術には何年かの勉強が必要ですから。少なくとも十二年勉強してから、あのような精密な縫合手術ができるのです。一本一本の血管と神経を縫い合わせるのです。そうでないと血液が流れず、細胞は壊死して機能が失われます。ですから、そういった仕事をする人は大変努力して学ばなければなりません。ドイツではこのような医者を神のようにとても尊敬し、病人は当然もつと尊敬しています。

そのような専門医はとても少ないのです。努力して学ぶだけではなく、仕事をするときはもつと大変です。立ったままで少しも動けません。十六時間、十八時間、時には二十四時間も神経を集中して、他の人と交替もできません。時には手術が終わるまで、休憩にも行けないし、食事にも行けません。万一向まう行かなかつたら、その腕はダメになります。ですから、とても慎重でなければなりません。一本一本縫い合わせます。腕の中には骨もあるし、全部縫い合わせないと機能は回復しません。以前と同じように自由に動かせるのはとても不思議なことではありませんか。縫い合わせると血液が流れ始め、皮膚もだんだん赤くなってきます。

私たちの状況も同じです。長くても百年しか生きないのに、多くの苦痛、多くの悩み、お金はあっても、きれいな奥さんがいても、立派な家があっても、いい仕事があっても、やはり満足できません。それはこの大きな「真体」と切り離されているからです。あの切断された腕と同様に、早く縫合しないと時間が経つと壊死してしまい、廃物になり、ごみ箱に捨てられ、腐

って誰も近づけなくなり、土の中に埋めるしかありません。

私たちも同じです。私たちを縫合してくれるマスターが必要です。孤独な私たちを大きなパワーの「真体」と繋げてくれます。この大きなパワーの真体を、ある人は最高の「神」と言い、ある人は「仏性」、「本心」、「道（タオ）」と言い、または「大我」、「大智慧」などと言っています。今、私たちは「小我」で、この「大我」の小さな一部分なのです。あの「大我」と離れているからこんなに苦しく、こんなに寂しいのです。あの切断された腕と同じです。見た目では乾いていて、元気がなく、活力ありません。縫合して、血液が流れると腕は素早く活力を回復します。

「音流」も同じです。「音流」は宇宙全体を繋げ、すべてのものが音流の中に含まれています。しかし、私たちは「音流」との繋がりがほとんど断たれ、ほんのわずかしこ繋がっています。もし縫合しなければ、私たちはすぐにこの音流と完全に断絶されます。なので、私たちは輪廻を繰り返して、「六道」（ろくどう：天上、人間、阿修羅、畜生、餓鬼、地獄のこと）の中に置き去りにされ、苦しむのです。そして高いレベルの境界（きょうがい）に行くことができません。このように他人の肢体を縫合する専門医になるのはとても難しいことです。必ず卒業成績が優秀な医者でなければなりません。しかも他人に対して「博愛の心」を持っている人しか選ばれません。選ばれたあとも長い間待たされてから、次の訓練を受けるのです。それはあのような技術を教えられる先生が少ないからです。万一、学生が多い場合、そばに立って見るだけで、

実際に実習するチャンスがないのです。

ドイツではこのような病院は一つしかありません。ですから、とても有名です。国際的にも有名です。そこへ行って勉強したければ、何年も待たなければなりません。先生の他、学生も実習に行けますが、長い間待たされて一回しか実習できません。人が多すぎるので交替で他人のやるのを見ながら、自分も練習するのです。そしてその後、先生になるのです。ですから、勉強することも簡単ではありません。このような専門医になることはもつと大変です。有名になることはもつと難しいことです。一度その技術を身につけると、人を救う能力だけでなく、人に教える能力も身につきます。ですから人々がなぜ専門医を、神のようにとっても尊敬しているのがわかります。当然専門医もこういう榮譽を得るに値します。

腕を縫合するのがこれほど簡単ではないのですから、「靈魂」を縫合することは当然もつと難しいことです。こういう医者が手術をするときはとても大変です。一日中立ったままで、一言も話すことも動くこともできません。精神を集中させ、少しの間違いも許されません。時間も限りがあります。腕が病院まで運ばれたときにはすでに時間をたくさん費やし、氷袋の中で長い時間経っているのです、さらに時間を費やすと腕は活力を失い、使えなくなりません。人手不足と時間を争う状況下で、当然ながらとても大変です。立ったまま十数時間、休憩もできず、精神を全部集中しています。本当はその医者はそんなに苦労しなくてもいいのです。そうでしよう。しかし怪我人のためにあんなに苦労しなければならないのです。苦労して学び、仕事のと

きはもつと苦勞し、苦勞ばかりしているのもすべて怪我人のためです。

医者が勉強するのは自分のためではありません。自分を縫合することはありません。たとえば自分が負傷しても、自分を縫合することはできません。学んでいるとき、頭の中に「私」は存在しません。思いはすべて他人のためです。努力して勉強し、卒業後もやはりあんなに苦勞して、手術室で病人のために苦勞しているのです。

これは偉大なマスターと同じです。偉大なマスターが人を救うときも、多くの苦しみを受けます。衆生のためにカルマを背負い、衆生のカルマをきれいにします。しかしマスター自身は良くない雰囲気に影響されません。怪我人はだんだん良くなりますが、医者はだんだん疲れて、いつも精神を集中するので、もつと疲れます。でも医者は文句を言いません。これが仕事であり、自分がやりたいことだからです。どんなに苦勞しても縫合手術が成功すれば、医者はとてもうれしいのです。

昔から今日までの大マスターも同じです。勉強して卒業すると、自分の智慧、パワー、福報を全部ただで他人に分け与えます。惜しみなく、直ちに分け与えるので、とても苦勞します。もしみなさんが靈魂の医者、または精神の医者になりたければ、私に従って学ぶことを歓迎します。みなさんの方が私よりもうまくできるかもしれません。手先が器用な人がいて、勉強したら、その人のマスターよりもうまくできるかもしれないからです。私はあまりうまくないので、多くの人が学びに来てくれるとうれしいです。そうすれば、多くの人が利益を得るからで

す。靈魂を縫合する医者是比较的少ないので、もっと多くの人が学びに来るのはいいことです。まだ多くのけが人が、私たちが救済に行くのを待っています。

(Mはマスターの答え、Qは聴衆の質問)

Q マスターにお伺いします。私は一日目に講義を聞いてから家に帰り、講義録を読みながら、マスターが加護してくださったものを食べました。すると体の中にあるパワーが出たように感じました。お伺いしますが、あの加護してくださったものの中にパワーがあるのでしょうか。

M もう感じたのに、何で聞くのでしょうか。あなたは自分で答えました。そうでしょう。(笑い) 私から貰ったものを食べると当然パワーがあります。さもなければ、どうやって感じたのでしょうか。私の講義やテープを聞いても加護の力があります。私のあげたものを食べるのは危険ですよ。今後はもう食べないように。(笑い) 食べたなら、もうこの世界へ戻れないかもしれませんか。もしまだ戻りたいなら、食べないでください。

Q 私は前にメデイテーションを練習したことがあります。ある音が聞こえて来ました。それで直ちにメデイテーションを止めました。悪い影響がでるのではないかと心配になったのです。

**M** 音にも本物と偽物があります。マスターについて勉強しなければ、本物と偽物の区別がつかみません。ですから、あなたのやり方は正しいです。放っておくことです。もし本物か偽物かを知りたければ、私に従って学べばわかります。でも、私はここで公には話すことはできません。伝法は公開できないのです。ここには学びたくない人がたくさんいるので、その人たちに無理やり聞かせることはできません。伝法はとても莊嚴で、とても神聖なことです。安売りするものではありません。そして多くの弟子を獲得するために、いい加減に行うものではありません。人を見て、本当に一世で解脱を渴望している人、智慧がある人で、観音法門の無上の価値を理解し、それを大事にし、修行に励む人は伝法するに値します。私の言っている意味がわかりますか。